

類学者の矢田部氏一行がヤブツバキとは違うツバキであると、認識して採集されたかどうかわからない。1906年に前記丸山忠次郎氏が関東のツバキと花の構造が違うと指摘したのが、ユキツバキの最初の発見者であるという可能性もある。しかしながら、越後のある地方で、古くからすでに形態の違いに気づき「ユキツバキ」と呼んでいた可能性も否定ができない。

つまり、古来からツバキとは形が違っていることに気づき、ユキツバキと命名したのは誰か、どの地方でそのように呼ぶようになったか、明らかな資料が必要に思われる。

県内のユキツバキの地方の呼び名に松之山地方では「ハッコ」と呼んでいたという(高橋 1986)。津南地方も「ハッポ」と呼んでいたという(津南町教育委員会 1994)。また、小千谷市塩谷では「ホッパ」と呼んでいるという(関省吾氏談)。それらの地方の呼び名の違いや意味にも興味がある。それにしても、それぞれの呼び名の最初は誰であったか確かめるのは困難であろう。

赤城源三郎・古澤達男(1984)

図解にいがた歴史散歩(五泉・中蒲原・東蒲原)

新潟日報事業社

本田正次(1947) 生物界 1(3):100.

本田正次(1950) その後のサルイワツバキ

植物分類地理 12(4):176-178.

北村四郎(1950) 植物分類地理 14:56-63.

奥山春季(1968) ユキツバキ採集の思い出 京都園芸

第58(椿第九号特):15-17.

高橋八十八(1986) 雪国の四季と草木と人間と(山村の博物誌)

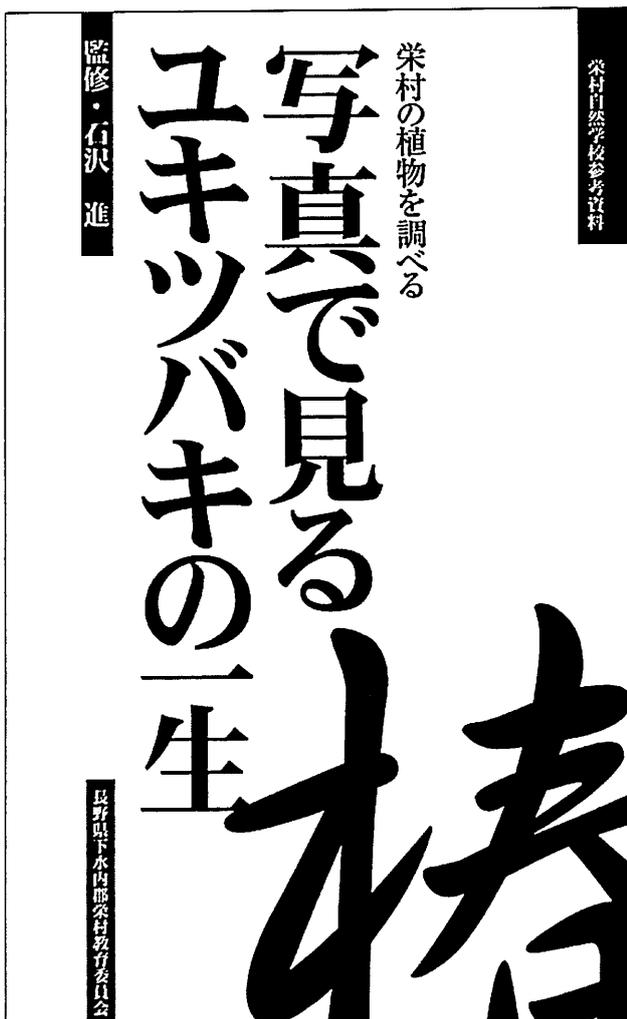
津南町教育委員会(1994) 津南町の自然 植物編 493pp
[草木の呼び名:40p]

津山 尚(1949) ユキツバキに就て

植物研究雑誌 24(1-2):97-100.

津山 尚(1968) Taxonomy and Nomenclature of the wild *Camellia japonica* Camellias of Japan. 45-47.(野生ツバキの分類と命名) 日本の椿(和文の部) 19-22.

図書紹介 下記の本(64頁)を出版しました。



目次

はじめに

1. 春、いつころ姿をみせるか	1
2. 春、いつころ花を咲かせるか	4
3. 花は株による違いがあるか	7
4. 花のつくりはどうなっているか	10
5. 芽はいつ開きはじめ、いつ終わるか	13
6. 次の年の葉の芽やつぼみはいつできはじめるか	16
7. 秋、果実はいつ実るか	19
8. 種子のつくりはどうなっているか	22
9. ふえていくしくみはどうなっているか	25
10. どのような林の中に生育しているか	27
11. 樹の大きさはどのくらい高くなるか	31
12. どのような植物と一緒に生えているか	34
13. どのように冬越しをしているか	36
14. 栄村でなぜ分布の限界になっているか	39
15. その他、どのような性質を持っているか	41
16. 人の生活とどのようにかかわっているか	44
17. 天神様はなぜツバキを嫌ったか	50
栄村におけるユキツバキの一生	53
—設問に対する解答—	

長野県の栄村で撮影した写真を主に使って「ユキツバキの一生」の紹介です。前半51頁はカラー写真で紹介し、53頁以降に解説を加えています。

一部 1,500円で配布を予定しています。希望者は本協会の事務局に申し込んで下さい。